

## 令和2年度 第1回みんなで支える森林づくり上伊那地域会議 概要

**開催日時** 令和2年(2020年)7月17日(金)13:00~15:00  
**開催場所** 南箕輪村 大芝高原みんなの森(森林セラピーロード)  
**出席委員** 榎本 浩実委員、唐澤 幸恵委員、高山 美鈴委員、高橋 英人委員  
田中 章委員、寺澤 茂通委員、三木 敦朗委員(座長)、盛 尚貴委員  
**事務局** 佐藤地域振興局長、中島林務課長、小林林務係長、平林林産係長、三澤普及係長、戸上治山林道係長、宮脇鳥獣対策専門員、小沢技師、中田技師、田口担当係長、井原担当係長、宮岡主幹、清水主査

### 会 議

- (1) 令和元年度長野県森林づくり県民税活用事業の実績について
- (2) 令和2年度長野県森林づくり県民税の事業内容について

森林セラピーロードを散策ののち、森林内の小屋にて会議開催。

#### <事務局説明>

会議事項(1)のうち、資料1により森林づくり県民税活用事業の検証・評価の流れについて説明。

(質疑なし)

#### <事務局説明>

会議事項(1)のうち、資料2により令和元年度森林づくり推進支援金事業の実績について説明。

(三木座長)

今の説明に対し、御意見や御質問をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

南箕輪村の事例で11ページになりますが、こちらに掲載の写真(マーケットテント)が本日集めた野菜売り場で活用されておりました。

(三澤普及係長)

すみません申し遅れました。マーケットテントと合わせて集合場所にももたろう旗があったかと思いますが旗を支える土台も森林づくり推進支援金を活用したものです。

(三木座長)

お住いの自治体の事例を見てなど御意見いかがでしょうか。

それでは箕輪町さんで活用された事例について紹介していただければと思います。

(高橋委員)

松くい虫被害対策の被害が拡大してきておまして、計画的に事業を実施している状況です。森林組合や財産区、個人所有者等に御協力いただきながら対応しています。

(三澤普及係長)

一点補足させていただきますと、箕輪町さんではこの支援金を活用して過去に伐倒燻蒸処理した丸太をチップ化するという事業に活用いただいています。

(榎本委員)

個人の森林所有者の道路近くの松枯れについて対応していただける補助金はあるのでしょうか？

(平林林産係長)

松くい虫被害対策の補助金については、国や県等様々ありますが、基本的には守るべき松林及びその周辺の松林が対象となっています。また、森林税ではライフラインを保全するという観点からの補助事業もあります。それ以外の個人所有林では対応できない場合もあります。

(小林林務係長)

まずはお住いの市町村にお尋ねいただければ相談に乗ってもらえると思いますので、よろしくお願い致します。

<事務局説明>

会議事項(1)のうち、リーフレット、資料3-1、3-2、3-3により令和元年度森林づくり県民税活用事業の実績について説明。

(三木座長)

この項目についてはとても重要なところですので、委員全員の皆さんからコメントをいただきたいと思います。事業に直接関わられた委員もいらっしゃると思いますので紹介もしていただければと思います。

(榎本委員)

伊那西小学校の学校林整備を弊社が携わせていただきました。主な内容は危険木の伐採と択伐です。下に生えている広葉樹を育てる目的で大きな木を抜き伐りさせていただきました。また、伊那西小学校の特徴として、10ページの写真をご覧いただくとわかると思いますが、校舎の目の前に1ha弱の多様な樹種の森が広がっています。そこで、もう一つプログラムが同時に進行しておりまして、「森の教室」、昨年地域会議の委員さんに視察いただいたかと思いますが、その建て替えをするということで、その場所に一本の大きなアカマツが生えていることから、木の命をいただいて森の中で利用を循環していくという学びも伝えたいという思いから伐採の見学会も実施しました。とても大きなアカマツを伐ったので、地響きが凄く、年輪を数えたり丸太に乗ってみたり、普段見ることのできない梢の部分を観察したりすることで学びにつながったものと思います。

また、子どもたちは伐採を行った樵に高い関心を持っていて、現場を離れたがらなかつたり、声援を送ったりということで、林業を身近に、また魅力ややすばらしさも伝えられたのではないかと個人的にも大変うれしく思っています。

(唐澤委員)

KEESプロジェクトを通じて森林税事業の子どもの居場所に関する事業に2年前の年度から携わっています。県による木製品の紹介の中にKEESブロックも掲載されており、県内の保育園や学童クラブなどに製品を納入させていただきました。

子どもたちが知らないうちに地域産材に触れ合っただけで遊んでもらえる機会が増えてきていて、自然のうちに長野県の木と遊ぶのが当たり前になってくるのはいいことだと思っています。それぞれの地域の木で子どもたちが遊べる環境が整いつつある長野県を誇らしく思っています。

また、昨年、伊那西小学校を舞台にした「学校の森・子どもサミット」についても関わらせていただきましたが、関係者など限られた人のみの参加ではもったいないと思っていまして、継続的に取り組んでいくことで学校での森の学びも浸透していくのではないかと考えました。普段から木のある暮らしが当たり前になればいいなという思いで活動を続けていきたいと考えています。

(三木座長)

「学校の森・子どもサミット」については、全国の催しが昨年伊那市で開催されて、今年度の国の森林・林業白書にも掲載されていました。やま保育も信州では盛んであることについても併せて紹介されていました。

そのほかいかがですか。

(田中委員)

資料3-1によると昨年度は単年度収入を上回る執行をしたということですが、森林税のこれまでの積み立ての金額の規模等をお聞きしたいと思います。

また、伊那西小学校ややま保育は教育の一環として取り組まれていると思いますが、こうした自然と触れ合うような取組は、子どもたちの成長にどのような効果をもたらすのか識見があれば教えてください。

(小林林務係長)

基金の運用につきましては、資料3-1の31ページをご覧ください。中段に表がございます。税込額が一番上にありまして、基金への繰り入れ、活用額、そして森林税の残高が整理してあります。森林税は第1期、2期と続けてきた中で同じ基金を運用しております。第2期末から第3期の始まりへは5億2千万円余が基金に積み立てられています。一番下に棒グラフがございますが、税込額の見込みと執行額の計画の推移を示しており、今期の森林税は令和4年度までですが、後年度に法人県民税の税金が見込まれておりますが、令和5年度までですべて活用するというところで現在のところ計画されている状況でございます。

(田中委員)

教育効果について、私は伊那小学校出身で伊那小学校の総合学習がどの程度効果があったかということとはなかなか難しいと思っています。木育や学校林が大切だというのはわかりますが、その教育効果について知りたいというところです。

(小林林務係長)

そうした自然活動などを経験した子どもはへこたれない、気持ちが折れないなど自己肯定感が高まる傾向にあるといった調査報告を見た記憶があります。

(三木座長)

この資料の写真にもありますが西箕輪の薪の会の活動に私も1回だけ参加しました。伊那市の西箕輪の地区で薪をつくる活動をされていますが、小さな沢の倒木がかぶさっているのをどけるという作業も行われていて、それはなぜかというまさにやま保育ということで保育園の子どもたちがサワガニを捕まえて遊ぶということをしています。そのこと自体にどのような効果があるのかはわかりませんが、それに参加されている皆さんは、自分たちも過去に遊んだ経験があるから、そこをもう少しきれいになりたいといった意識をお持ちで、もしそのような遊びの経験がないとそうした環境を良くしようといった関心に結びつかないのではないかと思います。私は故郷が滋賀県ですが、私の時はそうした授業もなく、自分の生まれた地域がどういうところかさっぱりわからないままこちらに来てしまって、やはり地域のことを子どもが体験して知るということが、例えば地域の外に出ていった後も戻ってくるひとつのきっかけになるのではないかと思います。データに基づいたことではありませんがそのように思います。

(盛委員)

高遠第2・第3保育園は一昨年の事業で山の整備をさせていただき、それから1年たって子どもたちは頻繁に山に行くようになりました。同じ場所で遊んでいるのに植物だったり虫だったり毎回新たな発見があるというのを子どもたちの様子を見ていて感じています。遊戯室など整った場所と異なり、山に行くと想定できない事が毎回毎回出てきます。その場その場で考えて、安全を自分で確保しながら遊んでいます、それを繰り返していると森と全く関係ないところに行った時に想定外のことにすぐ対応できるように育っていると感じています。人と人とのコミュニケーション能力も山に行き遊ぶことでとても育っているように感じます。

また、普段から木のものに触れているので、例えば食器などについてもプラスチックではなく木のものを選んだり、建物についても木は気持ちいいものとして感じる事ができているなどと思います。

(三木座長)

ありがとうございました。そのほかまだ御発言になっていない方、御意見や御質問などお願いします。

(寺澤委員)

森林税について大変メニューが増えている中でも取組が進んでいることに驚いているところです。そうした中で木製看板などが設置されていますが、作りっぱなしで維持管理されていないとどんどん傷んでいってしまいます。メンテナンスにより長く使ってもらえるようにすることが重要だと思います。

森林組合では森林税の事業では防災・減災などの森林整備を担っている中で林業に重点的に取り組む使命がありますが、先日も市町村役場の林務担当の皆さんが集まる会議の際話をしましたが、ついこの間までは木材の需要もそれなりにいい状況でしたが、このところ新型コロナウイルスの影響を受けて一気に木材の市況も変わってしまいました。今後も低迷が続くのではないかと憂慮しているところです。しかし、このところカラマツが評価されてきているということもありますので、今後も信州カラマツをさらに育成していくことが重要だと考えています。

(高山委員)

私は業として山に関わっているわけではありませんが、今新型コロナウイルスの話をお聞きして思ったのですが、都会から田舎へ住みたいという方がこのところ出てきているということなので、この機会をチャンスに変えるために、信州カラマツの素敵な家、モデルハウスなどを大いに宣伝して、信州に来たらこんないい木の家に住めるんだ、気持ちいいなという様なことを積極的に攻めに使えるようなことができるといいですね。

(高橋委員)

箕輪町では先ほどご紹介のあったとおり萱野高原に木製の公共サインを設置させていただいたところです。施設の利用者からは良い評価の声も届いています。写真にある小さな方の看板はカメラスタンドも兼ねていて自撮りなどでも活用いただけます。先ほどメンテナンスの話もありましたが、手入れをすれば長い期間使えるということであればほかの施設でも活用を検討できるのではないかと思います。

<事務局説明>

会議事項(2)のうち、資料4により令和2年度森林づくり県民税活用事業計画一覧、資料5により「木工体験活動支援事業」に係る事業主体について説明。

(三木座長)

ただ今の説明についてちょうど委員でいらっしゃいますので、活動の概要を御紹介いただきたいと思います。

(盛委員)

ありがとうございます。「あいさ」というのは伊那谷の方言で「間」という意味で、よく野良仕事などでこことこのあいさに植えななどといった感じで私も日ごろ使っていますが、山と里の間とか、都会と田舎の間とかどちらにも行ったり来たりして私たちがつなぐ役割ができたという趣旨から団体名を決めました。高遠の100年以上経つ古民家活用させていただいて地域の材を活用して子どもたちと一緒に木工体験をしながらよみがえらせたいと考えています。私も移住して20年経ちますがまだ地元の人ではないという中で地元の方と移住者の間をつなぎながら、過去と未来を体感できる場所をつくりたいと考えています。よろしく願いいたします。

(三木座長)

資料4と5について質問、意見のある方、発言をいただきたいと思います。

(榎本委員)

資料4の2ページ⑬の森林セラピー推進支援事業の中で、森林セラピー地域コーディネーターの育成とありますが、実際どういった形で人材を育成されるのか、またコーディネーターにどのように地域で活躍してほしいのか求める役割を教えてください。

(中島林務課長)

最後に添付してあります参考資料の19ページに本事業の概要の説明がございます。

(小林林務係長)

19ページに記載はありますが、求められている回答にはならないかなと思います。本事業は本庁林務部が直接執行している事業になりますので詳細を整理してまとめた上で後日委員の皆様へ送付させていただきたいと思っております。即答できず申し訳ございません。

(三木座長)

確かに森林セラピーガイドというのはわかりますが、コーディネーターとは何かということだと思いますので、それはぜひ後で。

(三木座長)

私から一点、この本年度の計画を見ると上伊那地域のシェアが非常に高いのですが、これは上伊那地域の皆さんがこれまで積み上げてきた中で様々な事業ができるということでもあると思いますが、逆に言うと県民の皆さんから集めた予算を上伊那で多く使っているということでもあるので、上伊那ではこのように対応しているから事業が進んでいるということ、上伊那地域の経験を他の地域に活かして行って令和3年度、4年度の事業につなげていっていただけるような仕組みを検討いただければいいと思っております。

(小林林務係長)

第3期の森林税の柱となっています里山整備利用地域の認定は、上伊那はスタートダッシュで先行して取り組んできたこともあり、その分シェアが高いところもありました。しかし、このところ県内の他の地域でも認定が進んできていて全県で88地域になっています。これからは森林税の活用に地域的な広がりが出てくるものと思われま。

上伊那の取組につきましては、確かに他の地域に参考にしていただけるようなすばらしい事例がたくさんありますので機会を捉えて紹介させていただきたいと思っております。

(高山委員)

先ほどの「あいさ」の取組については私賛成でございます。

(三木座長)

事業主体については、地域会議で推薦をしなければなりませんので、委員の皆様、「あいさ」の活動を推薦して本年度事業を行っていただくということでよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(高山委員)

ぜひ頑張ってくださいね。あの辺りは冬寒くなる場所ですけれども、そんな寒さも耐えられるような温かい心をぜひ育ててくださいね。

(盛委員)

はい。ありがとうございます。

(三木座長)

古民家のリノベーションもその過程が記録として残っていくと面白いかもしれませんね。

(盛委員)

はい。そのつもりです。

(三木座長)

そのほか何かありますか。

(高山委員)

10年くらい前に駒ヶ根市で県の植樹祭がありましたが、その後の様子をご覧になっていますか。

(小林林務係長)

この件につきましても現地で写真を撮りまして、先ほどの榎本委員の御質問の回答と合わせて委員の皆様にお送りしたいと思います。

(高山委員)

わかりました。楽しみにしています。

(三木座長)

そのほか何かありますか。

(唐澤委員)

一点宣伝させてください。

伊那市ミドリナ委員会といって、伊那市 50 年の森林ビジョンに沿いながら人と森とが繋がっている暮らしが当たり前になっていくことを目指して活動している団体ですが、本年度の事業としてミドリナカフェというイベントが8月5日の水曜日に予定されています。13回目の今回は伊那市西箕輪の森の中のコースでマウンテンバイクに乗って走ろうという企画です。ぜひご参加いただければと思います。

(三木座長)

そのほか何かありますか。

(榎本委員)

いつもだと会議室の中で、私も大変緊張して手がプルプル震えるような状況で会議に参加していますが、今日は森の中でとてもリラックスして、皆さんの意見もスーッと頭の中に入れてきましたし自分の意見も伝えやすかったなと思いますので、このように上伊那地域の森を見ながら森のことについて話し合える機会をいただけたらと思いました。

(小林林務係長)

ありがとうございます。ということで次回は現地視察を予定しておりますのでよろしく申し上げます。

(盛委員)

今日、フイトンチッドの話などをお聞きしながら雨の中でしたが森の中を歩いてとてもよかったです。また、最近新聞で東京農業大学の上原先生の森林療法の記事を見て、森林税が福祉の分野などでも貢献できているということを感じました。

(三木座長)

私からも一点。新型コロナウイルスの対策などで看護師の方々などエッセンシャルワーカーとして皆さんの生活を支える人たちとして重要だといった話がありますが、昨年から今年にかけて山地災害も多くあって、そうした災害の復旧やライフラインの確保に当たっている山で働く方々も我々の生活を支えている人たちだと思います。森林税との関係はおそらくありませんが、そうした危険を伴う仕事をされている方々が働き続けられるような、例えばそうした仕事に従事した時は手当てがきちんとつくという様なことで、ぜひ働き続けられる環境づくりをしていただきたいと思います。

それでは、本日予定されていた議事は以上で終わりかと思えます。委員の皆様お疲れさまでした。議事の進行を事務局に戻したいと思います。

以上